

令和4・5年度 鹿屋市研究協力校（学力向上）

## 鹿屋市立田崎中学校研究公開

【研究主題】

主体的・対話的で深い学びを意識した指導法改善  
～学習意欲と学力の向上を目指して～



令和5年9月29日（金）

鹿屋市立田崎中学校

# I 研究の概要

## 1 研究主題

### 主体的・対話的で深い学びを意識した指導法改善 ～学習意欲と学力の向上を目指して～

## 2 主題設定の理由

多様化した現代社会において、生活・学習習慣の乱れ、規範意識の欠如、学力の低下、自己肯定感の欠如などが重大な課題となっている。本校でも、近年のコミュニケーション能力の低下や生徒の学習意欲の低下が顕著になり、授業に興味・関心をもち主体的に学習する生徒や、対話的な学習に積極的に参加しようとする生徒が少なくなっている。本校の生徒の実態として、全校生徒 309 名の中規模校で、12 の部活動と 1 つの同好会があり、全校生徒の 6 割が入部し、心身の鍛錬に励み各種大会で好成績を残している。また、学校行事では体育大会や総合的な学習発表会においても生徒会やリーダーを中心にした生徒主体の活動が行われ、生徒自身もこれらの活動において自分自身の存在価値を感じながら主体的に参加している様子が見られる。一方、学習面においては、自己肯定感をもてず、問題を見て最初から学習をあきらめてしまっており、テスト等においても問題を解こうとすらない生徒も見られ、それが本校の大きな課題である学力の低下につながっている。また、情報通信機器の普及から「読む力」「書く力」が相対的に低下しており、このことが生徒の学習意欲の低下につながっていると思われる。そこで、本校の研修では生徒が自己肯定感を育みながら学習意欲を向上させることができるように、主体的・対話的で深い学びとなるような指導法について研究や実践を行いたいと考え、上記主題を設定した。

## 3 研究の仮説

- (1) ICT機器の活用を図ることで主体的・対話的な学習が展開され、そのことを通して学習意欲が喚起され、学力の向上につながるのではないかと。
- (2) 振り返りを行わせる際に、授業や単元の内容に応じて観点を設定することで、生徒は本時・本単元の定着度が明確になり、目標意識・課題意識をもって次の授業に向かうようになるのではないかと。

## 4 研究内容

### (1) 研究の経緯

#### 令和4年度

- ・基礎的・基本的な学習者用 ICT 端末（タブレット）の積極的な活用
- ・ICT機器を使用して生徒の学習意欲を引き出す効果的な活用方法や生徒に自己表現をさせるための研究
- ・田崎中授業スタイルの共通実践
- ・3H（ひきつけられる・ひろげる・ひもづける）を意識した授業実践
- ・「振り返り」で書く力の育成
- ・主体的・対話的活動の研究と実践
- ・教科ごとの共通実践事項の確認，教材・指導法の共有

#### 令和5年度

- ・学習者用 ICT 端末（タブレット）の効果的な活用
- ・ICT機器を使用して生徒の学習意欲を引き出す効果的な活用方法や生徒に自己表現をさせるための研究
- ・田崎中授業スタイルの共通実践
- ・3H（ひきつけられる・ひろげる・ひもづける）を意識した授業実践
- ・複数観点を設定した「振り返り」の研究と実践
- ・主体的・対話的活動の研究と実践
- ・教科ごとの共通実践事項の確認，教材・指導法の共有

## (2) 田崎中授業スタイルの共通実践



## (3) 3Hの授業実践

「主体的・対話的で深い学び」の捉え方を職員で意識できるように、定義をキーワード化し、その3Hを共通理解して自己の授業実践につなげている。

田崎中「主体的・対話的で深い学び」とは？ みんなで3Hを意識した授業設計を！

【主体的】

ひきつけられる

【対話的】

ひろげる

【深い学び】

ひもづける

3H

## 5 研究の組織

部会	学力向上部会	ICT活用研究推進部会	小中連携部会
研究事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>Web問題や定着度調査、よか問等の実施計画の作成と実践結果の集約</li> <li>NRT分析と改善策の検討・実践</li> <li>各教科の定着度の定期的な把握と改善策の検討・実践</li> <li>各教科の振り返りの実践と研究のまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT活用の研究と職員研修による啓発</li> <li>各教科でのICT活用状況の把握</li> <li>ICT活用の成果の把握と改善策の検討・実践</li> <li>先進的なICT活用方法の研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校の学習スタイルの把握と中学校で活用できる手法の精選</li> <li>小学校の学力の把握</li> <li>小学校のICT活用例の把握</li> <li>各委員会、部会の研究成果の小学校への報告</li> </ul>

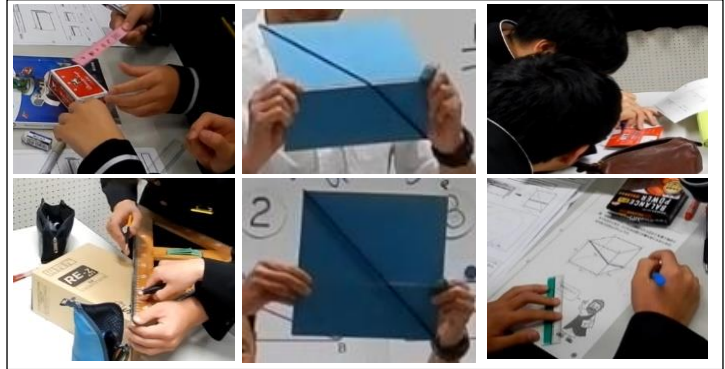
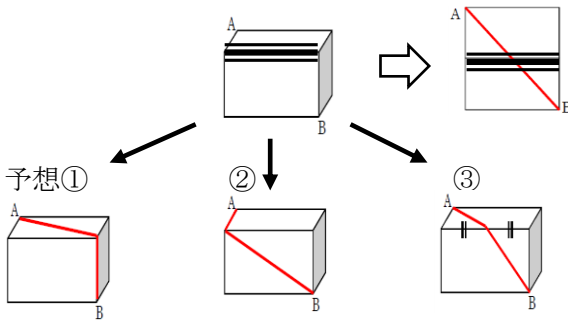
## II 研究の実際

### 学力向上部会

#### ● 主体的・対話的で深い学びについて（数学科の実践例）

3年生の「三平方の定理」の授業において「直方体の対角線の両端にある2つの頂点について、表面を通るときにはどのルートを通ったときに最短になるか。」という授業を行った。課題を解決するには、最短距離の意味や長方形の対角線が三平方の定理で求められることや、さらに立体と展開図の相互関係をきちんと理解しておかねばならず、発想力と空間認識力が必要となる。そこで、解決への糸口として具体物（お菓子の箱を含め様々な直方体）を準備し、実際に長さを測り最短距離を考えさせた。さらに、ペアや全体で意見交換し思考を共有することで、多様な考えに触れさせ、深い学びにつなげた。また、学習過程の中に、予想や問題解決の過程を取り入れることで、生徒主体の学習になり、教師は生徒の考えを把握しやすく、より個に応じたきめ細かい指導ができるようになった。

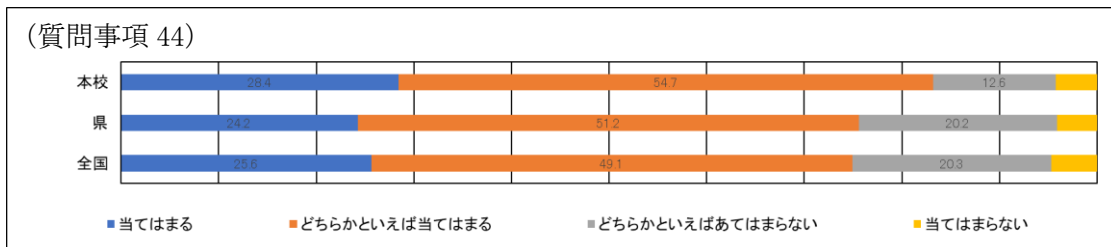
**学習課題** 直方体の点 A から点 B までの最短距離について考えよう。



今回の授業は、「問題解決の授業」の指導過程をベースに次のような流れで行った。

1. 学習課題の確認 2. 課題解決の予想を立てる 3. 予想について話し合う 4. 具体物を用いて確認する 5. 解決方法を見出す 6. 学習課題を解決する 7. 見届け問題に取り組む 8. 振り返りをし、共有する 9. 次時の内容との関連を確認する（空間内での最短距離）

● 学びを振り返る～なぜ振り返りは重要なのか～令和4年度全国学力・学習状況調査生徒質問紙より「学習の分かった点や分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」



**【成果】**

○ 「学習を見直し、次の学習につなげることができた」と回答している割合が県や全国より高く、「振り返り」で情意面が高まっており、これまでの「学力向上に向けた取組（振り返りの共通実践）」の成果が表れている。また、鹿児島学習定着度調査の質問紙の同内容「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」では、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」に現3年生は80%（県75%）、現2年生は88%（県77%）の回答率とともに県を上回る結果になった。2年間の継続した取り組みが、本校の生徒に浸透していることが明らかになった。

**【課題】**

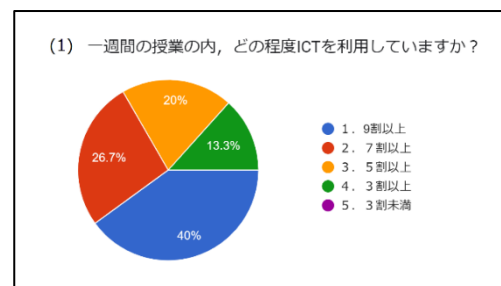
△ 生徒が主体的と唱えながらも、教師からの働きかけに生徒が活動しているだけの状況もあったので、教師が入念な準備や手立てを講じ「学習者主体の授業」を一層行っていく必要がある。

**ICT活用研究推進部会**

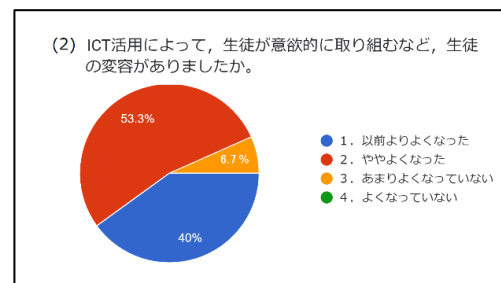
学力向上に向けた取組の共通実践事項であるICT活用を職員全体で共通理解し、日々の指導法改善に取り組んでいる。

**【成果】**


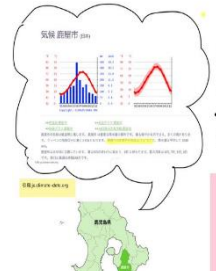
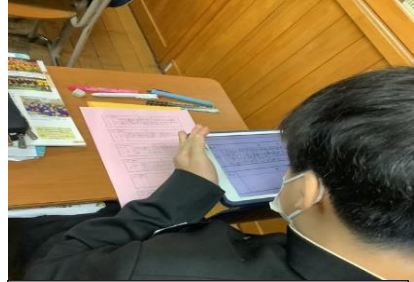
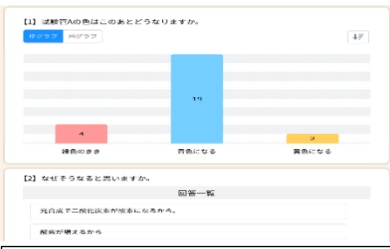

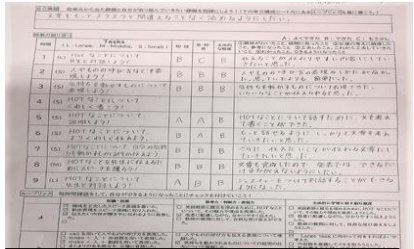
○ 職員のICT機器を活用し工夫を凝らした授業が日々実践されている。職員へのアンケートによると、一週間の授業の内、7割以上ICTを活用していると回答した職員の割合は、6割を超えており、ICT利用率は昨年度と比べ向上していると言える。



○ 職員からは「評価しやすい」「動画や作品をデータとして蓄積することができて、見返すなど楽になった」という声がある。また、「生徒の積極的な活用により、話し合い活動が活発になった」「振り返りの提出にICTを活用することで、質・量ともに内容が深まっていた」という生徒の変容も見られた。



【具体的な活用事例紹介】

導入	展開	終末
 <p>【数学科】インターネット教材を活用したトレーニング</p>	 <p>鹿屋の食の自慢</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>食料自給率100%</li> <li>鹿児島県の農業産出額のうち畜産部門は、鹿屋が第1位!</li> </ul> <p>・温暖な気候 ・豊かな自然風土 ・価格の高い畜産類 野菜類が占める割合が高い</p> <p>【国語科】鹿屋市の魅力プレゼン発表（共有ノート）</p>	 <p>【社会科】振り返りの提出（ロイロノート）</p>
 <p>【理科】実験の予想，理由の共有（ロイロノート・アンケート機能）</p>	 <p>【保健体育科】お互いに動きを撮影・アドバイス・修正</p>	 <p>【英語科】Large Goalに向けた自己課題設定</p>

【課題】

- △ 活用率は上がったが、それが「主体的・対話的で深い学びにつながる授業」となっているかを追究していく必要がある。主体的・対話的で深い学びとは何かを確認し、どのような活用の仕方をすればそこにつながるかを考え、年度末に共通実践事項を立てて3Hを意識した授業設計をすることにした。
- △ タブレット使用時に、職員の時間設定の甘さ、生徒の技能不足や目的外使用などにより、本来の授業の目標が達成できないことがある。
- △ 機器の不具合で授業が進められなくなったり、ネットワーク環境の悪さで作業に時間が予想外にかかったりすることがある。

小中連携部会

各教科・領域及び学習指導面と生活指導面について共通実践事項を作成し、実践している。

【成果】

- ① 相互授業参観型オープンスクールの開催
  - 年2回（田崎小学校1回，田崎中学校1回），授業を通じた小中連携の機会としてオープンスクールを実施している。児童生徒の様子を参観しながら，教科部・領域別の分科会でたくさんの情報交換をしながら共通実践事項の実施状況や課題を検討することができた。
  - 「小中一貫教育共通実践事項」と「各教科における共通実践事項」を作成し，意識して実践を進めながら，改善や見直しを小中の職員で話し合い毎年行うことができた。

小中一貫教育 R4 2学期からの共通実践事項		
(1) 学習指導・生徒指導等における共通実践事項（今年度小中合同研修会で決まったことは太字）		
学習指導①：小中一貫教育の組織・具体化		
1	学力向上旬間の年4回の設定 ノーマディアの実施	向上旬間にノーマディアを一日実施
2	連携を図る機会の設定（1学期・夏休み・3学期） 研究授業を相互参観（各校オープンスクール）	
3	年度初めから小中一貫教育に関わる係を決める 4月に小中共に連携内容、共通実践事項の確認	
4	地域を巻き込む活動の提案・充実	ワークショップ型学校運営協議会 あいさつ通りの設立
5	児童と生徒が交流し合う場の設定	あいさつ運動
学習指導②：授業の工夫・改善		
1	失敗しても大丈夫な雰囲気づくり（反応・ほめる）	構成的エンカウンターの実施 自己肯定感を高める取り組み 学級経営
2	教え合い学習（自力解決と対話の組み合わせ）	研修と関連づけて実践
3	人に伝える時間の確保（まとめでペアで）	研修と関連づけて実践
4	テスト勉強の方法の指導（中学校中心に）	◎ 学年に応じた指導・教科の特性を活かした指導
5	文章に線を引く習慣付け	各教科で線を引く部分の見方・考え方・ポイントを 押さえる。 自分の気付き、大事なこと、ヒントに印を付ける。
6	タブレットを活用した振り返りの確認・評価	振り返りの視点を示し、型を提示する。

～小中一貫教育共通実践事項（一部抜粋）～

② 小中合同研修会の開催

- 学習指導部会で中学校の宅習の取り組みを紹介したところ，小学校6年生でも同じ方法で宅習に取り組めた。また，生活指導部会で中学校の校則を紹介したところ，6年生の児童に対し，服装や靴などについて中学校に合わせた指導を入学前にできた。中1ギャップや戸惑いを解消し，小中の連結の部分スムーズに移行する手だてを講じることができた。

③ ICT活用における指導の連続性を重視した授業の実施

- 社会科では、オープンスクールでの小学校の授業参観を機に、ロイロノートのシンキングツールを活用したワークシートを中学校でも作成し、授業で使用している。個人で調べる、グループで交流（発表）する、分からないことがあれば質問するなど、小学校で行っていた授業の流れを中学校でも取り入れて実践している。また、主体的・対話的な活動にもつながり、これまでよりも授業が活性化した。



～シンキング ツールを活用した対話活動～

④ 1年生学習アンケート結果より

- 「戸惑ったことはない」と回答した生徒は、授業（決まりや進め方）について 79%、宿題や課題について 77%、テストについて 71%であった。7割以上の生徒がギャップを感じることなく中学校の学習に取り組んでいる。

【課題】

- △ 共通実践事項が多くなり、意識しながら徹底していくことが十分ではない面もあった。来年度、各教科・領域で共通実践事項を絞って共通実践を徹底していけるように改善を図る。
- △ 現6年生にアンケートを行い、中学校で学習する際の不安なことに「授業の内容」や「テスト」という回答が多かった。小中連携の取り組みを継続することで入学後の不安をなくしたい。

おわりに

令和4・5年度の2年にわたり鹿屋市研究協力校として、研究主題「主体的・対話的で深い学びを意識した指導法改善 ～学習意欲と学力の向上を目指して～」を設定して研究に取り組んできました。

本校の様々な教育活動の中で、ICT機器の活用や観点を設定した振り返りの共通実践がなされることで生徒たちの学習意欲は確実に喚起され、そのことを通して主体的・対話的な学びが展開され、学力の向上につながってきつつあると実感しています。このような生徒の姿や学校の様子は研究の成果であると捉えることができ、そのことは研究に取り組んできた職員たちの大いなる励みになっています。

とはいえ、本校の学力向上に向けた研究はまだまだ課題が多くあります。今後も、この2年間の研究体制を継続させながら、職員全体が一体となって、学習者主体の授業づくり、演習問題の計画的な実施、補充指導、個別指導の充実を図ってまいりたいと考えています。

最後に、これまでの多大なるご指導とご協力を賜りました鹿屋市教育委員会をはじめ関係各位に衷心からの感謝を申し上げます。

研究同人

校長	竹崎 賢一	教諭	上脇田 昭博	〈旧同人〉
教頭	久保 省治	〃	長山 佳奈	竹ノ山 誠忠
教諭	安永 浩一	〃	柏原 龍哉	江藤 順治
〃	井上 夏子	〃	松元 正子	澁田 貴之
〃	佃屋 恵美	〃	小野田 健	後藤 菜月
〃	郷 桂子	〃	吉元 敦子	明石 浩久
〃	坂元 綾霞	〃	西松 響	山内 泰朗
〃	渡口 里美	〃	宮永 齊也	味吉 奈々
〃	徳永 繁樹	初任者研修	浦元 悟	
〃	福永 美奈	養護教諭	松下めぐみ	
〃	宮園 優人	事務職員	飛松 海輝	
〃	末弘 慈子	主事	日高真由美	
〃	池之上理子	用務嘱託	西小野 守	
〃	吉永恵理子	特別支援教育支援員	年永亜住果	
〃	亀之園千恵	マイフレンド相談員	江口 真弥	
〃	小原 大樹	スクールカウンセラー	前原 恵理	

